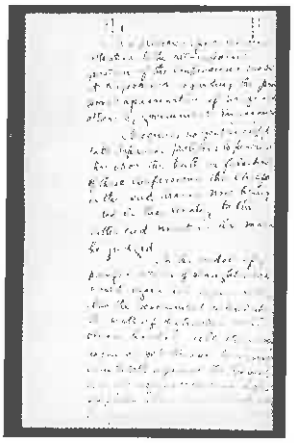
# ウィリアム・ウィリスに関する一考察
# 及び「ウィリス文書」に登場する人物名等の紹介

## ―『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の刊行に寄せて―

内　倉　昭　文

### はじめに

平成15年10月に，創泉堂出版より『幕末維新を駈け抜けた英国人医師　―甦るウィリアム・ウィリス文書―』が出版された。この本は，平成10年３月，『遠い崖』などの著作で知られる歴史研究者の故萩原延壽氏から，黎明館に寄贈された「ウィリアム・ウィリス文書」（以下「ウィリス文書」と省略する）の翻訳文集である。翻訳を鶴見大学講師の大山瑞代氏，解説を日本女子大学助教授の吉良芳恵氏が担当し，他に鹿児島日英協会会長及び鹿児島大学医学部同窓会（鶴陵会）会長の尾辻義人氏，歴史研究者（尚古集成館前館長，現鹿児島県歴史資料センター黎明館史料編纂顧問）の芳即正氏に推薦の辞をいただいた。寄贈を受けてから５年以上の歳月を経て，多くの人々の御理解・御協力を頂いて，ちょうど黎明館開館20周年の年にその記念事業の一環として刊行されたことは，大変喜ばしいことである。はじめにあたり，まずこのことに触れておきたい。また本稿は，私自身黎明館側の窓口（担当者）としてその刊行に関わった関係からまとめたものであるという点も，予めお断りしておきたい。



故萩原延壽氏から寄贈され，現在黎明館が所蔵する「ウィリアム・ウィリス文書」

平成15年10月に刊行された『幕末維新を駈け抜けた英国人医師　―甦るウィリアム・ウィリス文書―』

## 1　ウィリアム・ウィリスに関する一考察

今回「ウィリス文書」の刊行に係わったことは，従来些細なものであったウィリス及び「ウィリス文書」に関する知識及び認識を，いくらかでも深めることにつながったのではないかという点で，自分にとっても決して無駄ではなかったと考えている。後述する漢字比定作業以外にも，今回出版社の依頼により巻末の「ウィリアム・ウィリス略年譜」を作成したが，その作業に関連して新たに確認できたこと，あるいは再確認できたことも幾つかあった。もちろんそれには大山氏の翻訳や御教示等に助けられたことも多い。以下，それらの点を簡略に述べてみたい。なお，年月日は原則として，西暦に基づいている。

### (1)　ウィリスの身分及び資格等に関して

従来ウィリスに関する著作は決して少ないとは言えないが，資料的な制約などから明らかにされていない点や，何らかの理由で誤って伝えられている点も少なくない。例えばこれまでの多くの著作物には，ウィリスの来日の際の身分を「公使館」付医官などというように書かれているが，今回の大山氏の翻訳により，正しくは「領事館」付医官としての来日であったことが確認できる。一方1885（明治18）年にウィリスがタイ国バンコクに赴任する時は，「総領事館」付医官である。

また，1881（明治14）年にウィリスが英国王立外科学会の会員になると記述された文献も多いが，大山氏の御指摘によれば，ずっと以前に外科医の免許を取得した時点で既に会員になっており，そのことは1872（明治５）年６月に作成されたウィリスの「履歴書」にも明らかである。この1881年５月の方は，「フェロー」（あえて訳せば“特別会員”ぐらいが適当か）となった時点であるとのことである。

### (2)　ウィリスの来日・来鹿に関して

ウィリスの来日については，翻訳された書簡の日付及び記述から，上海から長崎港に着いたのが1862（文久２）年５月12日で，その後瀬戸内海を経由し同５月23日に横浜に到着している。

また，鹿児島に招かれた時は，招聘されたのは1869（明治２）年のうちであるが，実際に到着したのは明けて1870（明治３）年１月になってからであることが再確認できる。これに関して，1963（昭和38）年に鹿児島市の滑川に建てられた「赤倉（注；鹿児島医学校はその外観から，赤倉病院と呼ばれた）の跡」記念碑には，「明治２（1869）年12月から８年間ここで多くの医学生を養成した」とあるが，これは旧暦に基づくと考えるならば，矛盾はしない。

### (3)　ウィリスの日本での家族に関して

ウィリスの日本での家族については，残念ながら英国の兄弟夫婦に宛てた書簡を中心とする「ウィリス文書」には，殆ど登場しない。この欠点を，様々な文献や戦前の新聞記事，ウィリスの

お孫さん（アルバートの娘）に当る河内まり代氏への確認等で補い，空白を少しでも埋める努力をした。

ア　妻八重及び八重との結婚に関して

最初に妻の江夏八重については，貴重な資料として，故萩原延壽氏が『遠い崖』の中で紹介されたように，横浜開港資料館所蔵の「武田家（注；アーネスト＝サトウの御子孫）旧蔵資料」の中にある「八重の転居届」がまず上げられる。

まず江夏八重の氏名については，文献によっては「八重」と「八重子」の両方の記述が見られるが，正しくはいずれであろうか。東京にある八重の墓石には，その菩提寺の方にお伺いしたところ，「八重子」と刻まれているとのことである。一方前述の「転居届」及び「ウィリス文書」中の「1877（明治10）年３月12日付田畑常秋宛ウィリアム・ウィリス書簡（以下ウィリス発信のものは発信者名を省略する）」（西南戦争の勃発に際し本人及び家族等の長崎への旅券発行を願い出たもの）には，共に「八重」と書いてあり，また御子孫の河内まり代氏のお話等も勘案すれば，どうやら「八重」が正しいようである。しかしこの点に関しては，昔の広く一般的な慣習，（すなわち本来付いていないにもかかわらず，）女性の名前の最後に「子」を付けて呼ぶということを考えれば，そう厳密に考える必要のないことかも知れない。

次に八重の生没年についてであるが，「転居届」では生年月日が嘉永４（注；1851）年７月28日と記載されている。これに関しては，ウィリス自身が前掲の「田畑常秋宛書簡」に妻八重の年齢を「27歳」と記載している。これは，当時の一般的な慣習の数え年で考えた場合に，ぴたりと一致している。一方没年に関しては，一部の文献などで1933（昭和８）年と書かれているものの，墓石には昭和６（注；1931）年２月10日と刻まれているとのことであり，これは前述の河内まり代氏の御記憶とも矛盾しないので，こちらが正しいのであろう。この結果，八重は満年齢で79歳にて亡くなったことになる。

ところでウィリスと八重との結婚に関しては，『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』巻末の年表で，1871（明治４）年頃と曖昧な記述しかできなかった。確実な資料の未見などから，はっきりと確定することができなかったのである。この点に関しては，私自身の単なる調査不足かも知れないので，いわゆる伝聞等だけに基づくものではなしに，その年（月日）を確実に証明できる資料をもしお知りの方は，どうか御教示頂きたい（特に後述の鮫島近二氏の遺稿集『明治維新と英医ウイリス』の中で断片的に触れられた，「結婚確認証」の内容を，知りたいものである）。

イ　息子アルバートに関して

次に，息子のアルバートについて，没年月日は1943（昭和18）年12月17日であることは，娘さんの河内まり代氏の証言及び複数の文献の間に食い違いはないので，まず間違いないであろう。では一方で生年月日の方はどうであろうか。これについては，一部の文献と食い違うが，河内まり代氏の，父アルバートは戌年生まれで70歳（数え年か）で亡くなったという記憶と，前述の「田畑常秋宛書簡」を参考にして考えてみたい。すなわち，逆算して該当するあたりの年代を調べると，明治

7（1874）年がちょうど戌年に当る。また，「田畑常秋宛書簡」では，息子アルバート・ウィリスの年齢を２歳と記載している。この場合の２歳というのは満年齢である可能性が高いと思われる。この点前述の八重の場合と矛盾するように見えるが，おそらく八重の年齢は，八重自身の（数え年による）口述に基づくものではなかろうか。1877（明治10）年３月12日段階で２歳ということから杓子定規に計算すると，アルバートの生年月日は，1874（明治７）年３月13日から1875（明治８）年３月12日までの間ということになる。以上のような論拠から，アルバートの誕生年を，おおよそ1874（明治７）年半ば前後から暮れ頃までの間と推測したものである。なお，この点に関しては，前述の『明治維新と英医ウイリス』の中でも「明治７年」と述べられてるのと一致する。他に何か具体的な資料を把握されておられる方は，御一報願いたい。

### (4) ウィリスの鹿児島での住居に関して

赤倉病院，すなわちウィリスの鹿児島病院の場所については，太平洋戦争で破壊されるまで存在したことなどからその場所が比定されており，その近辺に前述の記念碑が建てられている。

一方ウィリスの鹿児島での住居についてはいかがであろうか。

「ウィリス文書」の中で手掛りを探ると，来鹿当初の住居に関して触れた部分は殆ど存在せず，「1870（明治３）年７月３日付ハリー・パークス夫妻宛書簡」の中に僅か，海に近いところに住んでいる旨のみが書かれているだけである。参考までに，森重孝氏の『薩摩医人群像』（昭和51年）の中に，「ウィルスと八重子とは加治屋郷に住み」とあり，であるとすると結婚後は八重の実家（山之口）と比較的近い場所に住んでいたことになる。一方，1876（明治９）年５月頃「県側」により着工された新しい家に関しては，「ウィリス文書」の中に度々その記述が見られる。それらによると，住まいは西洋式ではなく日本家屋で，建築費は400ポンドから500ポンドの間，２階に４部屋，階下に６部屋あるということがわかる。さらに「1876（明治９）年７月15日付ファニー・ウィリス宛書簡」では，通行人に家の中を覗かれないように，生け垣の向かい側に竹の垣根を作るつもりがあること，さらに今月（注；７月）中に新居に引っ越すつもりでいることなどがわかる。

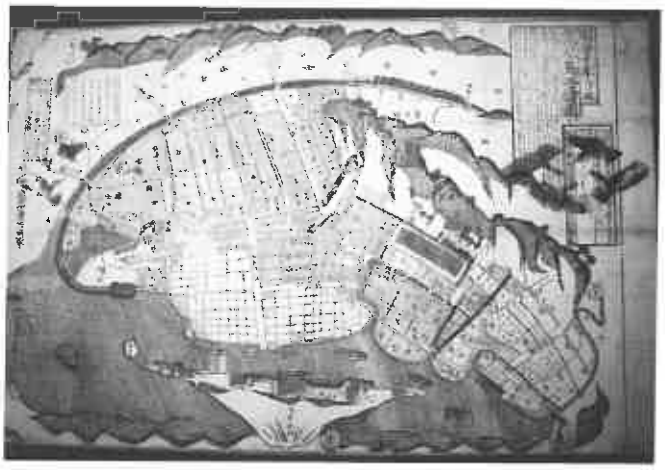
では一体その場所は，具体的にどこであったのであろうか。

残念ながら，それら英国・英国人の親族・知人等に宛てた手紙には，細かい地名を書いても仕方がないであろうと判断したせいか，場所が確かに特定できる記述がない。ただ「1877（明治10）年４月30日付ウィリアム・ウィリス宛ジョン・C・ハバード書簡」及び「1877（明治10）年５月９日付ファニー・ウィリアムス宛書簡」によると，ウィリスの新しい住居が「入り江」に比較的近く，「海からの砲撃を受けない限り」燃え残る場所である，というようなことがわかる。これに関しても，森重孝氏が「ウィリアム・ウィリスの門下生たち」（『鹿児島大学医学雑誌ウィリアム・ウィリス没後100年追悼特集号』平成７年）の中で，「赤倉病院の近く」と記述されている。さらに，より具体的な記載がなされているのが，前述の『明治維新と英医ウイリス』である。その中で，ウィリス夫妻と親交のあった三田村スエ子氏の話として，「ウィリスさんの住宅は滑川の下流の埋立地の

海岸近くにあって病院と医学校に接して居った」と紹介されている。

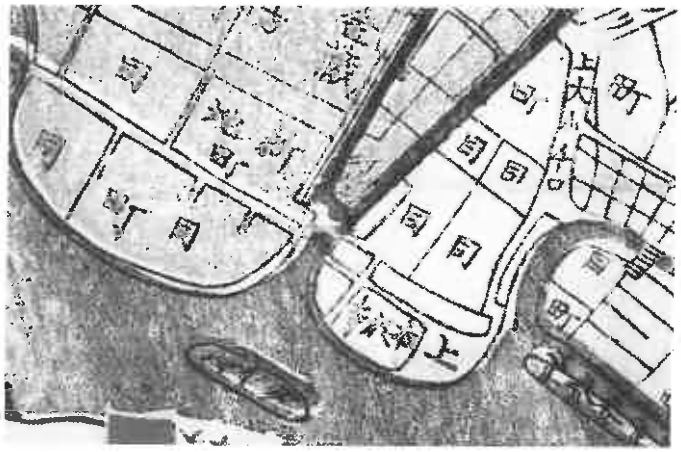
ここで，黎明館が所蔵する一枚の絵図を紹介したい。これは，「明治十年丁丑 鹿児島略絵図」というもので，西南戦争直後の鹿児島城下を描いた絵図である。この絵図の一部の拡大写真（下段）を御覧頂きたい。写真のちょうど中央付近に，「イシンクワン」と記載されているところがある。「イシンクワン」は漢字で書くと「異人館」と推測され，有名な磯の「異人館」はもちろん，下荒田にあった英国人技師ティッセンの住居が同じく「異人館」と呼ばれていたと伝えられている事などからも，外国人の住居である可能性が高い。もちろん鹿児島病院（赤倉病院）は洋風の建物で，それとの混同の可能性も考えられないでもない。また，当時鹿児島にいた外国人はウィリスやティッセンだけでなく，例えば前掲の「ジョン・C・ハバード書簡」から，「コープス」や「スヘーペル」の住居もあったことがわかる。

しかしながら，前述の三田村スエ子氏の話や地理的・時期的な状況等を考えると，ウィリスの住居の事を指している可能性も高いのではないだろうか。この点に関しては，それを裏付ける文献として，前述の『明治維新と英医ウイリス』がある。すなわちそれは，「医学校は後に浄光明寺から易居町の以前刑務所のあった所に移転したがウィリスも居をそこに卜した。」との記述である（「以前刑務所のあった所云々」の記述については，すぐ後で触れる）。ちなみにその場所付近には，現在高層住宅（アーバンポート）が建っている。



「明治十年丁丑　鹿児島略絵図」（黎明館所蔵）

なお，同絵図には西南戦争の際火災で焼失した地域が色分けしてあるが，それによると「イシンクワン」の含まれる地域は西南戦争終末期の９月１日から24日（新暦）の間に「ヤケ」たことがわかる。また『鹿児島県警察史』（鹿児島県警察本部，昭和47年）等によると，その近辺に1878（明治11）年２月「監獄所」が建てられているので，おそらくその時点では既にその付近に住宅は存在しなかったのではないか。



同絵図の一部（拡大したもの）

これに関しては，興味深いウィリスの書簡が残されている。すなわち「1877（明治10）年６月１日付ファニー・ウィリス宛書簡」の中で，「鹿児島の我が家は焼失を免れたと聞きました。」と書いている。その後同年８月に妻子を

残して単身で日本を離れているので，以降の住宅の運命は，把握できなかったのではないだろうか（できたとしても，だいぶ遅れてからの事であろう）。

西南戦争が勃発しなければ，そして待遇面等環境に大きな変化が起こらなければ，おそらくそこでの親子そろっての生活が，長期間継続したであろう事を考えると，ウィリス一家の胸中を察するに余りある。

※　本節の論考に関しては，大山瑞代氏と河内まり代氏に特に御協力頂いた。また，平成10年に黎明館で開催された企画展「鹿児島医学の父　ウィリアム・ウィリスの足跡」を担当した黎明館前職員の馬場ちひろ氏が，その際収集した資料も参考にした。併せて謝意を表したい。

## 2　「ウィリス文書」に登場する人物名等の紹介

「ウィリス文書」に登場する人物は，延べではなく実数で500名を軽く超えているが，これは取りも直さずウィリスの多彩な交友関係と，「筆まめ」で几帳面な性格にも起因するものであろう。

幕末・維新期の激動の時代を生きたウィリスであるので，主観的な表現が目立つとは言えその几帳面な記述・記録は，それだけで十分貴重なものである。当然一般的な人物研究に関しても，何らかの情報を提供してくれる可能性も少なくない。また，逆にその主観的記述の中に，往々にして彼自身の「本音」が語られており，大変興味深い。

この節では，「ウィリス文書」をほぼ網羅した翻訳文集である『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の中に登場する人物名等を，一覧表の形で示してその紹介をすると同時に，「索引」としての活用等により研究者の利便に供することも目指したい。

ただし，「ウィリス文書」の私信の大部分を占める兄夫婦（９歳年長の兄ジョージ及びその夫人ファニー）の人物名掲載については，それだけで膨大なものとなるので除外してある。また，原則として，ひらがな書きはひらがな書きのままのように，同書で記述されたとおりの形で取り上げた。ただし，「父上」・「大名」などのように書かれたものであっても，特定できるものについては実名で取り上げた。掲載ページ数は同じ文書中にあっては，何回出てきても初出のページ数のみ記載するにとどめるので，念のためそれぞれ同一文書の最後までは目を通す必要がある（一方，同一ページではあってもそれぞれ別な文書に出てくる場合には，繰り返し重ねてその掲載ページ数を掲載した）。さらに，同名でありながら，改行されて上下２段ないし３段にまたがっているところは，全くの別人である場合はもちろん，可能性は考えられても同一人物であるとの確証が持てない場合などである。また，「索引」としての利用も考えて便宜上五十音順に並べたが，僅かながら正しい読み方の確証が持てないものもある。「仮」の五十音順ぐらいに考えて頂けると気が楽である。

最後に，作業に当っては充分に確認を行ったつもりであるが，万が一ミスや漏れがあったら御容赦願いたい。そしてその場合には，早めに御連絡頂けることを希望している。

## 『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の翻訳文に登場する人物名等一覧表

| | 人物名等 | 掲載ページ |
|---|---|---|
| あ | アーウィン | 729／732 |
| | アーサー | 606 |
| | アーサー・コウル（氏） | 700／700／701／702<br>703／705／708／715<br>718／719／726／727<br>729／732／733／737<br>738／742／752／752<br>756／757／759／760<br>762／764／765／768<br>773 |
| | アーサー・コウル大佐 | 702 |
| | （サイモン・）<br>アームストロング<br>（ウィリスの兄） | 8／22／23／48／65<br>74／76／79／83／87<br>97／100／109／113<br>115／125／136／141<br>159／174／182／201<br>257／263／265／290<br>311／322／327／336<br>341／344／366／453<br>550／563／573／575<br>581／606／637／658<br>669／674／706／725<br>743／756／769／776<br>860／863 |
| | アームストロング夫人<br>（ケイティー） | 97／107／126／136<br>159／174／263／265<br>267／322／327／336<br>341／344／366／581<br>669／706／726／743 |
| | （サー・A・）<br>アームストロング | 708 |
| | 秋岡 | 484／487／502／522<br>565 |
| | 秋岡研道 | 504 |
| | （ウィリアム・G・）<br>アストン | 372／430／431／744 |
| | 足立慎吾 | 456 |
| | アダムズ（氏） | 6 |
| | アダムズ（氏） | 371／453 |
| | アダムズ | 695 |
| | （アリグザンダー・）<br>アバーディーン | 368／374 |
| | アプリン大尉 | 304／335／400 |
| | アムティ夫妻 | 677 |
| | 有栖川宮 | 782 |
| | 有馬雄之介 | 615／633 |
| | アルツ（さん・氏） | 7 |
| | アルツ夫人 | 7 |
| | メアリー・アルツ | 7 |
| | アルバート・バクスター<br>（八重との息子） | 664／786／789／792 |
| | アレン・トンプソン | 192 |
| | アン（ウィリスの姉） | 36／37／38／102<br>110／113／243／303<br>576／582／691 |
| | アン女王 | 8 |
| | アンズリー | 731 |
| | アンズリー夫人 | 731／744 |
| | （ウィリアム・）アンダスン | 602／618 |
| | アンドリューズ氏の夫人 | 186 |
| い | （オーウェン・）イーストン | 192 |
| | 飯田 | 467 |
| | イエ | 273 |
| | 池畑拙蔵 | 446 |
| | 石踊（医師） | 487／506／654 |
| | 石神氏 | 583／610 |
| | 石神（ひこえ）氏 | 599 |
| | 石神良策 | 432 |
| | 石橋政方 | 808／812／816／816<br>818／818／822／822<br>823／825／825／826<br>827／827／828／829<br>834／835／836／838<br>840／841／844／847<br>847／848 |
| | 伊集院 | 467 |
| | 市川渡 | 196 |
| | 伊地知氏 | 458／469／654 |
| | 伊地知庄次 | 456 |
| | 伊地知惣蔵 | 463 |
| | 伊地知傳次姉 | 445 |
| | 伊藤博文（ヵ） | 225／227 |
| | 稲葉壮次郎 | 246 |
| | 井上馨（ヵ） | 225／227 |
| | 岩切仲左衛門母 | 444 |
| | 岩重権之丞 | 444 |
| | 岩下正之丞 | 465 |
| | 岩下氏 | 470 |
| う | ヴァイオレット嬢 | 860 |
| | ヴァイス（大尉・領事） | 45／73／75／78／127<br>137／143／152／271<br>407 |
| | ヴァイダル | 322 |
| | ヴィクトリア女王 | 259／363／367／412<br>416／424／431／496<br>731 |
| | ウィリアム | 588 |
| | ウィリアム | 695 |
| | ウィリアムズ（家・氏・さん） | 48／74／101／111<br>139／152／181／260<br>265／575／605 |
| | ウィリアムズ嬢 | 737／768／802 |
| | （アンナ・）ウィリアムズ嬢 | 139 |
| | （エレン・）ウィリアムズ嬢 | 79／101／638 |
| | （フィリップ・）<br>ウィリアムズ | 575／605 |
| | ウィリアム叔父さん | 174 |
| | ウィリアムズ夫人 | 139／511／606 |
| | ウィリアム・マーシャル | 11 |
| | （ランドルフ・）ウィリー<br>（長兄夫婦の息子） | 42／59／70／137<br>145／165／184／251<br>267／562／592／610<br>628／646／649／739<br>741／743／750／768<br>800／813／859 |
| | ウィリス夫人 | 114 |
| | （ジョージ・）ウィリス<br>（ウィリスの父） | 12／23／36／37／38<br>49／53／65／84／87<br>100／109／113／115<br>125／135／141／164<br>191／243／278／281<br>286／303／310／318<br>322／327／336／341<br>349／360／365／404<br>417／448／529／532<br>539／581／588／627<br>648／863 |
| | （ジョージ・）ウィリス<br>（ちのとの息子うたろう） | 485／786／789／792 |
| | （ジョン・）ウィリス | 90 |
| | （ジョン・）ウィリス | 645 |
| | （ハナ・）ウィリス<br>（ウィリスの母） | 12／33／36／38／39<br>49／53／61／66／80<br>87／100／114／115 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 126／135／174／176 |
| | | 205／231／238／241 |
| | | 268／286／301／310 |
| | | 326／453／509／510 |
| | | 523／525／527／529 |
| | | 533／539／552／554 |
| | | 556／561／588／591 |
| | | 592／600／607／622 |
| | | 624／625／626／638 |
| | | 653／672／676／696 |
| | | 697／698／699／719 |
| | | 729／732／734／740 |
| | | 800／812／820／849 |
| | | 857 |
| | （ロバート・）ウィリス | 645 |
| | ウィルキンスン | 719 |
| | ウィルキンソン | 797／809 |
| | ウィルキンソン（夫妻） | 295／454 |
| | ウィルキンソン夫人 | 295 |
| | （デイヴィド・）ウィルキン | 646 |
| | ウィルソン（氏） | 136／551／637 |
| | ウィルソン夫人 | 181／551／637 |
| | ウィンチェスター（氏・医師） | 39／42／127／137 |
| | | 143／236／242／255 |
| | | 259／263／265 |
| | ウィンチェスター夫人 | 166／242／260／263 |
| | | 267 |
| | ウーリー | 780 |
| | 上木源右衛門 | 445 |
| | ウェスト医師 | 414 |
| | （J．B.）ウォルシュ | 156 |
| | ウォレス | 111 |
| | 内田仲之助 | 429／431 |
| | （ウィリアム・）ウッド | 368／374 |
| | 宇都宮 | 654 |
| え | エヴァ嬢 | 74 |
| | エヴェレット | 359 |
| | エディンバラ公 | 428 |
| | エドワード | 753 |
| | エニスキレン卿 | 48／135／317／686 |
| | | 687／698／699／700 |
| | | 700／701／702／703 |
| | | 704／708／715／717 |
| | | 728／729／731／733 |
| | | 742／753／757／759 |
| | | 762／768／773／863 |
| | エニスキレン卿夫人 | 732／734／775 |
| | エリザベス（ウィリスの妹） | 36／37／38／125 |
| | | 135／219／243／302 |
| | | 576／582／637 |
| | エンズリー | 45 |
| お | 大野周耕 | 463 |
| | 大久保利通 | 783 |
| | 大村益次郎 | 417 |
| | 大山格之助（綱良） | 456／521／564／586 |
| | | 587／594／595／596 |
| | | 597／598／599／602 |
| | | 611／615／616／624 |
| | | 625／638／642／655 |
| | | 664／668／668／677 |
| | | 678／681／681／682 |
| | | 683／683／720／724 |
| | | 736／758／780／781 |
| | | 782／785／786／786 |
| | | 787／787／788／790 |
| | | 791／793／809／821 |
| | | 851 |
| | 大山（げんごろう）氏 | 668 |
| | （サー・ラザフォード・）オールコック | 38／40／42／63／71 |
| | | 73／75／80／85／88 |
| | | 95／105／121／127 |
| | | 137／139／154／197 |
| | | 202／203／204／206 |
| | | 209／213／215／217 |
| | | 221／222／225／232 |
| | | 235／239／240／241 |
| | | 245／254／256／259 |
| | | 302／699 |
| | オールコック夫人 | 139／198／204／209 |
| | | 213／225／242／267 |
| | オールストン氏 | 174 |
| | オールド嬢 | 74 |
| | 緒方金之助 | 444 |
| | 緒方勇右衛門氏 | 471 |
| | 岡積 | 484／502／522／565 |
| | | 655 |
| | 岡積省三 | 467／504 |
| | 小川重任 | 784 |
| | 奥山氏 | 663 |
| | オサリバン（船長） | 775 |
| | 小野氏 | 458／469 |
| | 小野通一 | 784 |
| か | カービー | 296 |
| | ガヴリエル | 84 |
| | ガウワー | 45 |
| | 加賀美庄二（庄司） | 456／463／464／467 |
| | | 474／483／487／490 |
| | | 491／495 |
| | 影井 | 502／522／565／655 |
| | 鹿児島医学校校長 | 639／641 |
| | 鹿児島郵便局長 | 745 |
| | 加治木 | 502／522 |
| | 加治木敬介 | 467／483／495／504 |
| | | 513 |
| | 鹿島 | 655 |
| | カスター（さん） | 5 |
| | 勝安房守（義邦・安芳・海舟・麟太郎） | 584 |
| | 桂右衛門（久武） | 456 |
| | 加藤 | 470／502／522／565 |
| | | 654 |
| | 加藤信輔 | 484／504 |
| | 加藤（たいせつ）氏 | 458 |
| | 蒲池源八 | 246 |
| | 鎌田正之助 | 445 |
| | 上村 | 655 |
| | 上村剛造 | 467／483／497／502 |
| | | 504／522／565／749 |
| | 上村泉三（泉蔵） | 463／467／483／497 |
| | | 504／564 |
| | カミユ | 177／181／197 |
| | （カミン・カー） | 264／281／305 |
| | ガリシア | 57 |
| | ガリンドウ夫妻 | 860 |
| | 川崎様 | 456 |
| | 川路利良 | 783 |
| | 川辺弥十左衛門 | 444 |
| | 川畑吉次郎 | 446 |
| | 川村純義 | 618 |
| き | 貴島平八 | 615／632／633／650 |
| | 貴島典之進妻 | 446 |
| | 北島秀朝（長崎県令） | 788 |
| | 木通（雲洞（ヵ））（医師） | 504／506／522／565 |
| | | 654 |
| | 紀平右衛門 | 445 |
| | ギボン | 288 |

| | | |
|---|---|---|
| | キャリバン | 713 |
| | Captain McCau | 860 |
| | キャンベル夫人 | 348 |
| | （お）清（シケープルの妻） | 786 |
| | キルデア | 719 |
| | キルデア卿 | 766 |
| | （チャールズ・） | 368／374 |
| | キングストン | |
| | キング提督 | 302／305 |
| く | クウィン（氏） | 769 |
| | クーパー（提督） | 73／127／129／132 |
| | | 133／139／140／142 |
| | | 147／148／155／159 |
| | | 167／181／215／217 |
| | | 225／232／252 |
| | クープ氏 | 745 |
| | 楠本いね | 308 |
| | （オランダおいね）（ヵ） | |
| | グッドフェロウ博士 | 48 |
| | クラーク | 78／147 |
| | クラーク | 88 |
| | （フローレンス・メアリー・） | 704／714／717／718 |
| | クライトン（子爵）夫人 | 738 |
| | グラヴァー | 40／42／305／718 |
| | クラニー氏 | 524 |
| | クラマー氏 | 724／758 ？／804 |
| | | 810 |
| | クラレンドン卿 | 291／301／352／424 |
| | | 431 |
| | （R・）クリアリー | 182／258／562／692 |
| | | 696 |
| | （ロバート・）グリーン | 368／374 |
| | グリフィン（さん） | 741 |
| | クリンプ | 61／147 |
| | クレーギー司令官・艦長 | 79／126 |
| | クレメル氏 | 789 |
| | グローヴ夫人 | 278 |
| | 黒木（医師） | 502／504／507／522 |
| | | 565／654／659 |
| | 黒木元俊 | 491 |
| | 黒田氏 | 498 |
| | 郡司盛武 | 784 |
| け | ケイト嬢 | 24／48／52／70／76 |
| | （ケイト・ウィリアムズ） | 79／82／86／91／101 |
| | （ウィリスの憧れの女性） | 116／130／201／239 |
| | | 257／260／511／575 |
| | | 607 |
| | ケインズ | 109 |
| | ケンプトナー | 259 |
| こ | 孝明天皇 | 69／106／132／132 |
| | | 143／148／149／151 |
| | | 173／178／212／213 |
| | | 217／221／223／227 |
| | | 233／262／282／288 |
| | | 294 |
| | コウル卿（アーサーの兄） | 703／728／729／732 |
| | | 742 |
| | コウル卿夫人 | 742 |
| | ゴウルディング氏 | 753 |
| | コープス氏 | 804 |
| | コール | 369／374 |
| | （ベッシー・）コールター | 753 |
| | 古木恕積 | 463／467／483／504 |
| | 国生 | 502／522／565／655 |
| | 国生喜介 | 504 |
| | 五代友厚 | 162 |
| | コックスター氏 | 94 |
| | GodDaughter | 863 |
| | （ウィリスの）名付け娘 | |
| | 木場貞政 | 824 |
| | 小林小太郎（こたろう） | 108／119／127 |
| | コブデン | 203 |
| | コラド | 222／224／229／231 |
| | | 234／237 |
| | コリン | 14 |
| | 是枝（氏） | 502／522／565／655 |
| | | 761 |
| | 是枝安仙 | 463／467／483／504 |
| さ | 西郷吉之助（隆盛） | 456／779／782／784 |
| | | 794／807／810／821 |
| | | 824／851 |
| | さいしょ　じゅんご | 459 |
| | 齋藤伊八郎 | 444 |
| | 裁判官補佐 | 738 |
| | サイモン（父の叔父） | 114 |
| | 酒井忠篤 | 382 |
| | 榊原政敬（幕末高田藩主） | 390 |
| | 坂元（医師・氏） | 481／487／488／493 |
| | | 494／502／564／578 |
| | | 603／654／655／661 |
| | | 683／754 |
| | 坂元常彦 | 782 |
| | 坂元幽齋 | 463／466／484／513 |
| | | 521 |
| | 相良 | 565 |
| | 相良しょうぞう | 564 |
| | 崎山氏 | 457 |
| | サクソン | 750／811 |
| | 左近允竹輔 | 457 |
| | 笹川宗右門妻 | 446 |
| | 佐多浦（カ）（医師） | 487／506 |
| | サットン | 204 |
| | （アーネスト・）サトウ | 99／196／202／224 |
| | | 229／232／272／335 |
| | | 346／349／421／524 |
| | | 526／554／573／630 |
| | | 699／745／779／795 |
| | | 796／799／821 |
| | サトウ氏（アーネスト父） | 173／196／630 |
| | サトウ氏の兄 | 271 |
| | サマーセット大佐 | 407 |
| | サミュエル・メイン | 92 |
| | 鮫島氏（医師） | 474／481／487／488 |
| | | 493／494／502／507 |
| | | 522／661 |
| | 鮫島啽齋 | 459／484 |
| | 鮫島（G） | 522 |
| | 鮫島淳菴（庵） | 463／466／502／640 |
| | | 641／642 |
| | 三条実美 | 784 |
| し | シーザー（カエサル） | 130／355／857 |
| | C・R夫人 | 860 |
| | 椎原助左衛門娘 | 445 |
| | （アリグザンダー・フォン） | 307／319／326／379 |
| | シーボルト（氏） | 407／415／421 |
| | シーボルト（父） | 379 |
| | シェイクスピア | 857 |
| | ジェイムズ（ジミー） | 36／37／38／48／53 |
| | （ウィリスの兄） | 66／95／102／110 |
| | | 113／115／125／127 |
| | | 135／137／144／152 |
| | | 158／164／174／196 |
| | | 209／238／243／258 |
| | | 264／267／281／286 |
| | | 290／303／310／345 |

418／419／530／533
550／550／556／562
573／576／582／587
592／599／608／620
628／638／645／653
671／677／691／696
697／768／859
ジェイムズ　718
（プレストン・）ジェイムズ　753
ジェイムス・ボウルズ　114
ジェンキンズ　45／59／62／68／72
75／77／83／87／88
92／93／95／99／112
127／187／198／202
206／209／212／214
216／222／224／229
231／234／237／243
253／256／271／275
292／296／316／323
593
ジェンキンズ夫人　274／285／593
シケープル（スヘーペル（ヵ））　503／786
重太郎　445
重信（医師）　464／484／502／522
565／578／654／754
重信伝蔵　467／504／513
重信よつじ　459
重野安繹ら　183
四条宮　425
シドニー　606
シドル（シダル）医師　374／376／377／415
417／554／559／630
シドル夫人　630
柴山龍五郎娘　446
渋谷　502／522／565
渋谷　602
渋谷喜兵衛　444
渋谷麟徳　457／504
島津久治　609
島津久光（島津三郎）　78／142／147／148
または島津忠義　156／159／160／173
178／180／183／196
212／305／338／435
460／465／528／557
559／567／570／573
609／623／630／677
773
清水清次　（243 ？）／246
シモンズ　88
シュネル氏　384
ジョージ（長兄）　省略
（若い）ジョージ（ジョージ・オーウェン）　102／136／145／165
（長兄夫婦の息子）　210／267／288／299
309／317／320／340
346／347／353／360
364／371／420／422
426／509／510／526
537／539／551／555
562／607／619／629
635／637／646／652
672／675／693／694
695／697／699／703
704／726／731／739
740／743／745／747
750／756／759／767
776／778／811／812
820／863
ジョーンズ嬢　75／108／152
（ブラウン・）ジョーンズ　134
ジョン・コウル　718
（かつての）司令官と息子（たち）　639
次郎　445
新宮拙蔵　456
甚左衛門　444
シンプソン医師　171／172／175
仁兵衛　445

す
杉田秀雄　444
スタンリー卿　317／363／367／407
図師　599
ずち（図師（ヵ））こせつ氏　459／470
（ステイシイ）　94
（S・ロイド・）ステイシー　714／715
ストラウド　350／358
スヘーペル　663／（751 ？）／804
スミス医師　261
（スミスさん一家）　358
スリック　101

せ
セイヴァリ嬢　165
せいのじょう　あいきよ　748
関壮運　457

そ
宗太郎（使用人）　789／792
ソーンダース　719

た
ダーティア卿　719
タイラースミス氏　181／184／199／226
高木氏　458／469／487／488
高木藤四郎（兼廣）　463／475／490／491
492／583／586／595
596／599／602／605
610／618／663／699
741／768／852
高橋藤十郎　247
高橋龍雲　457
武　655
武井　487／502／504／506
522
竹内　502／565／655
竹内平男　504
竹之内　522
田崎秀親（独領事を殺害）　774
たつおか　502
伊達宗徳または宗城？　307
田中清之進　429／431
田中作一　445
谷山新次郎　445
田畑常秋　683／720／736／738
769／789／790／790
791／791／792／792
809
（パトリック・）ダフィー　368／374
玉乃判事　851
タルス　11
タルボット氏　340
ダンフィー（氏・家）　693／695
ダンフィー嬢　694
（ダンフォード）　695

ち
中馬　502／504／522／565
655
中馬泰蔵　467／484
勅使随行書記官　791

つ
つむら　さいぞう　429
鶴田喜碩　457

て
ディーキン　70／92／130／135
210／331
デイヴィス　369／374

| | | |
|---|---|---|
| | （ウィラビー・）デイヴィス（一家） | 695 |
| | デイヴィス嬢 | 186／202／252／263<br>275／283 |
| | ディクソン氏 | 188 |
| | ティッセン（氏・夫妻） | （735？）／742／751<br>804／821 |
| | ティッセン夫人 | 742／751 |
| | 手塚 | 522／565／654／655 |
| | 手塚芳庵 | 457／504 |
| | 寺島宗則（寺島陶蔵閣下） | 162／429／808／822<br>823／825／825／826<br>843／844／846／848<br>849 |
| | テリー（フランシス・ハーテル） | 8 |
| と | 東郷 | 502／522／565／578 |
| | 東郷げんい | 504 |
| | 灯台建設担当技師 | 731 |
| | ドゥ・モーガン氏 | 11 |
| | ドー | 217／222／224／229<br>231／234／237／239<br>240／253／254／256<br>258／264／271／274<br>284／292／296／300<br>316 |
| | ドーソン（ドースン） | 719／733 |
| | とき（女中） | 789／792 |
| | 徳川家茂 | 63／106／132／132<br>142／147／148／151<br>155／167／172／178<br>180／184／185／190<br>212／217／223／227<br>234／236／245／262<br>269／272／275／282<br>286／288／293／352 |
| | 徳川（一橋）慶喜 | 315／324／329／334<br>338／346／350／352<br>358／366 |
| | としゆき | 754 |
| | 戸塚文海 | 584 |
| | トム・グリーン | 863 |
| | ドライ嬢 | 740／750 |
| | ドロモンド（艦長） | 789 |
| な | 長島鐵太郎 | 784 |
| | 永田（医師） | 487／506／654 |
| | ながた　さきえもん | 459 |
| | 中原（医師） | 487／506 |
| | なかばら　うわきち | 459 |
| | 中原尚雄 | 785／851 |
| | 永鎖 | 502／565／655 |
| | 永峰 | 522 |
| | 永峰研造 | 504 |
| | 中牟田 | 654 |
| | 中村弥右衛門 | 444 |
| | 永山源次郎 | 445 |
| | （I・W・）ナット | 686 |
| | 斜木 | 502／522／565／654 |
| | 斜木武三 | 467／484／504 |
| | ナムール公 | 302 |
| | 成田恒富 | 456 |
| に | （セント・ジョン・）ニール（夫妻） | 39／42／59／62／68<br>73／77／85／95／105<br>112／115／127／132<br>137／140／142／147<br>148／159／161／184<br>190／196／202／205<br>207／211／212／217<br>233／236／252／255<br>256／259／282／352<br>699 |
| | 西四辻公業（侍従） | 784 |
| | ニューディゲイト大佐 | 753 |
| | 仁次郎 | 444 |
| | 仁和寺宮（嘉彰親王） | 390／425 |
| ね | ネオ | 283 |
| の | ノース氏 | 316 |
| | ノーマン | 850 |
| | ノーマン医師 | 637 |
| | 野村権兵衛氏 | 471 |
| は | （R・）バーヴィス | 368 |
| | （サー・ハリー・）パークス | 259／262／265／268<br>270／273／278／281<br>286／288／291／293<br>299／300／301／304<br>310／315／324／325<br>328／332／335／337<br>342／346／349／349<br>351／354／357／360<br>363／367／369／373<br>375／377／403／408<br>412／414／417／424<br>431?／435／453／554<br>561／581／715／717<br>728／766／780／781<br>782／786／788／793<br>794／799／826／843<br>844／848 |
| | パークス夫人 | 260／263／267／278<br>283／289／295／302<br>308／311／316／325<br>328／342／346／350<br>351／355／358／371<br>377／404／414／437<br>554／581／699／811<br>819／821 |
| | パークスの長男（ハリー） | 328／373／377／404<br>414 |
| | パークス夫人の妹 | 699 |
| | パーシヴァル | 254 |
| | （ヘンリー・）ハーディング | 368／374 |
| | バード中尉 | 243／244 |
| | ハートレイ | 253 |
| | ハーバー（氏）（函館ドイツ領事） | 774 |
| | （エドワード・）ハーバート（マリアとの息子） | 51／54／56／81／90<br>94／96／116／118<br>119／131／144／146<br>158／165／176／179<br>184／198／200／221<br>251／255／260／325<br>357／406／407／420<br>423／428／448／510<br>526／534／537／555<br>558／562／592／610<br>628／646／649／739<br>741／750／776／813<br>821／858 |
| | ハウウェル（さん・氏） | 7 |
| | ハウウェル嬢 | 7 |
| | 萩野平右衛門娘 | 445 |
| | 萩原（K） | 522 |
| | 萩原亀太郎 | 444 |
| | 萩原佐平太（氏） | 458／463／491／513 |
| | 萩原（氏） | 469／487／492／502<br>506／618 |

| | | |
|---|---|---|
| | パクソン（さん） | 852 |
| | 橋口 | 565 |
| | 橋口さいちろう（佐一郎？） | 504 |
| | 橋口與一郎 | 456／461 |
| | バッド医師 | 523 |
| | （エドマンド・）ハットン | 368／374 |
| | ハナ | 36／37／38／238<br>241／241／261／303<br>530／535／539／550<br>558／576／581／622<br>653／691／741／800 |
| | （ジョン・C・）ハバード | 804／810 |
| | （ジョン・C）ハバードの妻 | 806 |
| | （E・）ハモンド | 19／350／359／407 |
| | 林新左衛門 | 446 |
| | 林泉三 | 463 |
| | 林卜庵 | 428／429／432 |
| | パリー大尉 | 218／269 |
| | （T・）ハリス | 9／13／48／74／109<br>348／448／553／576<br>629／635／693／694<br>740 |
| | ハンター | 136 |
| | ハント家 | 142 |
| ひ | （J・）ビアド氏 | 77 |
| | ビーティー | 42 |
| | 日置帯刀 | 375 |
| | 東久世（通禧）中将閣下 | 411／825 |
| | 肱岡喜助 | 455 |
| | 日高休八 | 444 |
| | ピップス | 3 |
| | 平山傳左衛門 | 446 |
| ふ | ファニー（長兄の妻）<br>（小さな・かわいい）<br>ファニー<br>（長兄夫婦の娘） | 省略<br>47／126／232／267<br>288／318／321／354<br>508／510／523／525<br>527／536／539／545<br>549／550／554／556<br>561／572／573／575<br>581／589／592／599<br>607／610／619／628<br>635／637／644／648<br>651／657／673／674 |
| | フィルポウズ | 9 |
| | フェクター（俳優） | 25 |
| | フォーブス（さん一家・氏） | 142／177 |
| | フォレスト夫人 | 593 |
| | ブキャナン嬢 | 813 |
| | 藤右門 | 446 |
| | 藤崎勇左衛門 | 445 |
| | ブラー艦長 | 780 |
| | プライス（家） | 10／26 |
| | プライス嬢 | 8 |
| | プライス夫人 | 813／821 |
| | （ジョー・）プライス夫人 | 813 |
| | ブライト | 203 |
| | （フォン・）ブラント | 435 |
| | プライド（家）（さん） | 25／74／109／137<br>223／317／321／332 |
| | プライド夫人 | 23／137／332 |
| | （ルーシー・）プライド嬢 | 332 |
| | ブラウン | 498 |
| | ブラウン少将（将軍）<br>（H. B. ブラウン） | 167／180 |
| | ブラックウッド（父・娘） | 762 |
| | ブラドフォード | 135 |
| | フラトン | 419 |
| | フランスの元王族 | 302 |
| | フリア（嬢） | 304 |
| | プリーストリー博士・医師 | 11／12／16／699 |
| | プリヴォイド | 33 |
| | ブリックデイルさん | 340 |
| | （サー・フレデリック・）<br>ブルース | 206／259 |
| | ブルータス | 857 |
| | 古川傳左衛門 | 444 |
| | ブレイクウェイ | 752 |
| | フレッシュマン | 15 |
| | ブロミッジ嬢・さん | 331 |
| | プロメテウス | 8 |
| へ | ヘイクネル一家 | 695 |
| | ベイリー牧師（一家） | 72／88／152／202<br>252／263／283／343<br>351／378 |
| | ベイリー夫人 | 72／76／88／107<br>152／186／202／252<br>282／343／350／351<br>378 |
| | ペリサー（店名？） | 260 |
| | ベルファスト大教授息子 | 631 |
| | ヘンスマン氏 | 551 |
| ほ | ホィーラー氏の息子 | 264 |
| | ボイル | 45 |
| | ボイル | 78 |
| | ボイル | 84 |
| | （サー・ジェイムズ・）ホープ | 63／67／107 |
| | ホーズ（氏） | 718／817 |
| | ボールドウィン少佐 | 243／244 |
| | ポール副官 | 289 |
| | （サー・エドマンド・）<br>ホーンビー | 269 |
| | ボクサー艦長 | 161 |
| | ホッグ氏 | 192 |
| | ホッジズ | 726 |
| | ホッジズ教授 | 726 |
| | ホプキンズ | 859 |
| | ホブソン師 | 41 |
| | ボロデール夫人 | 78 |
| ま | マーカス・フラワーズ | 780／788／791／793<br>794／844 |
| | マーカム | 350 |
| | マーシャル | 78／147／151 |
| | マーチスン医師 | 728／733 |
| | マーフィ医師 | 38 |
| | マーヨン医師 | 637 |
| | 前田嘉吉妻 | 445 |
| | 前田平蔵 | 446 |
| | （ジョン・）マクドナルド | 154／224／291／301<br>316／377 |
| | 孫市 | 445 |
| | 孫太郎 | 446 |
| | マチルダ嬢 | 607 |
| | マッカーシー | 275 |
| | マッケロイ | 141 |
| | マッケンジー | 289 |
| | （I・C・）マッケンジー | 667 |
| | 松平容保（父子） | 381／393 |
| | まなが氏 | 663 |
| | マフード医師 | 101／127 |
| | （マフードさん） | 326 |
| | マリア・フィクス<br>（英でウィリスの子出産） | 51／54／56／77／81<br>90／97／117／118<br>198／260／325／406 |
| | マルコム | 740／748／750／768<br>801／821 |
| | マルドゥーン家 | 588 |

| | | |
|---|---|---|
| | マルドゥーン嬢（セイラ） | 268／530／534／556<br>563／577／582／588<br>592／599／620／645<br>677／849 |
| | マンツ嬢 | 860 |
| み | 溝口直正（幕末新発田藩主） | 390 |
| | 三田村氏 | 791／805 |
| | 三田村氏の妻 | 805 |
| | 三田村敏行 | 653／663／782／792 |
| | 三田村（一）氏 | 466／469／474／482<br>487／490／491／494<br>495／503／503／505<br>516／564／578／585<br>587／595／597／603<br>610／615／618／624<br>625／633／633／640<br>659／663／668／676<br>683／685／721／724<br>747／751／758／761 |
| | 三田村惟一 | 594／598 |
| | 三田村（りさぶろう） | 617 |
| | ミットフォード | 301／303／310／315<br>324／335／355 |
| | ミットフォード | 719 |
| | ミットフォード | 853 |
| | 南 | 565／655 |
| | 南げんぽ | 504 |
| | 箕田 | 602 |
| | 宮川（医師） | 487／505 |
| | 宮川玄水（氏） | 492／515／517／566<br>617 |
| | ミュザリーソン博士 | 18 |
| | ミルドリド | 860 |
| | ミルロイ博士 | 565 |
| む | ムーア艦長 | 160 |
| | ムーア船長 | 810 |
| | 村田 | 654 |
| | 村尾勇左衛門 | 444 |
| め | 明治天皇 | 338／358／366／370<br>380／383／389／391<br>404／411／411／436<br>497／508／511／521<br>528／567／623／783<br>784／787／811／825 |
| | （ジョン・）メイスン | 368 |
| | メイン | 138／140／190 |
| | メサー氏 | 553 |
| も | 毛利敬親 | 159／167／173／178<br>209／212／217／221<br>225／227／245／262<br>269／293 |
| | モーガン老人 | 409 |
| | 森家 | 495 |
| | 森氏（森有礼？） | 827／848 |
| | モリソン | 127 |
| | 森友右衛門妻 | 444 |
| | 森藤左衛門 | 445 |
| や | 八重（妻・江夏八重） | 664／721／786／789 |
| | （八重・ウィリス） | 792／810／830 |
| | 八代規 | 784 |
| | 安岡良亮（初代熊本県令） | 773 |
| | 山岡吉左衛門娘 | 446 |
| | 山崎幸平 | 457 |
| | 山崎新左衛門 | 455 |
| | 山下勇次郎 | 445 |
| | 柳原閣下 | 788／791 |
| | 山内豊範または<br>豊信（容堂）？ | 349／370／（410？） |
| | 山本盛時 | 784 |
| ゆ | ユースデン | 73 |
| よ | 横山 | 502 |
| | 横山深蔵 | 463／467／484 |
| | よし（女中） | 789／792 |
| | 吉島善助 | 444 |
| | 吉村源二妻 | 446 |
| | 吉本祐雄（判事） | 784 |
| | 四宮 | 754 |
| | 四元 | 655 |
| | 四元友輔 | 457 |
| ら | （ウィリアム・G・W・S・）<br>ライディングズ | 368 |
| | ラウダー氏 | 75 |
| | ラッセル | 759／760／764 |
| | ラッセル（卿） | 13／15／16／19／98<br>106／111／154／191<br>256 |
| | （レジナルド・）ラッセル | 45／72／95／97／104<br>111／119／129／138<br>145／149／164／179<br>182／189／190／195<br>202／205／207／310 |
| | （W・R・）ランカスター | 678／680／681／685<br>736 |
| り | リード船長 | 129 |
| | リスター | 852 |
| | （リズデリー） | 621 |
| | リチャードソン | 77／137／142／147<br>160／185／204／305<br>338／573／630 |
| | リックワード氏 | 35 |
| る | ルイス牧師 | 102 |
| | ルイ・フィリップ | 302 |
| | ルーイン氏 | 501 |
| れ | （トミー・）レイコック | 739 |
| | レディアド（夫妻） | 852 |
| | レディ・アリス | 719／729 |
| | （ヘンリー・A・）<br>レディヤード | 695 |
| | レペル提督 | 345 |
| ろ | （ロータンダ） | 820 |
| | （サー・チャールズ・）<br>ロコック（一家・氏） | 12／13／14／15／292<br>295／335／350／371 |
| | ロコック夫人 | 292／352 |
| | ロシア王子 | 526／539 |
| | （ロスコー） | 551 |
| | ロッシュ | 306／329 |
| | ロツェツィ | 550 |
| | ロニー | 704／706／741／750<br>813 |
| | ロバートソン | 762 |
| | （R・ブルック・）<br>ロバートソン | 129／134 |
| | ロバートソン氏 | 340 |
| わ | ワーグマン | 752／756 |
| | 和田仲大夫 | 444 |
| | 渡辺 | 502／522 |
| | 渡辺昌齋 | 459 |
| | ワトソン | 214／216／220 |
| | ワトソン | 526／554／760 |


注①同一人物と確実には判断できないものは改行した。②人名等の表記は，同書の記述に大部分基づいている。
③同一文書内にあっては，初出ページのみ記載した。④同書832～834ページの掲載分（書籍著者名等）は割愛した。

## 結びにかえて

### (1)『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の「限界」について

最後に，結びにかえて，ぜひ触れておきたいことがある。それは，『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の「限界」と言ってもよい点である。

まずその１点目は，同書は９百ページ近い分厚い本でありながら，それでも黎明館が所蔵する約700点の「ウィリス文書」の殆ど大部分とは言え，完全に全ての文書の翻訳文を掲載しているわけではない，という点である。訳者あとがきで大山瑞代氏が言及されているように，黎明館に同文書が寄贈される以前に，萩原延壽氏及び御夫人宇多子氏が崩しのひどい原文書を「解読」されたものがあり，その時宇多子氏が取捨選択された（「捨」の方は圧倒的に少ないので念のため）ものをベースに，今回大山氏が吉良氏と相談の上その他必要なものを再び加えて翻訳し直したものである。しかしながら結果として日本及び鹿児島に直接・間接的に関係する文書はほぼ全て網羅されており，この点の研究に関しては，大した障害にはならないと判断できる。

２点目は，同書の翻訳の素晴らしさ・格調高さには少なからず賛辞が寄せられているけれども，当然のことながら，これはあくまでも大山瑞代氏の訳であり，英文に御堪能な研究者の中には，直接原文にも当たりたいと思われる方もおられるであろう。経済的・時間的な制約がなければ原文の写真まで掲載できればよかったのであるが，この厳しい出版不況の中にあっては，翻訳文集が刊行されたことだけでもお許し頂きたい。

３点目は，大山瑞代氏が訳者あとがきでも触れており，また実際に翻訳文に目を通してもらえればわかるように，原文書でアルファベットで書かれた人名（ごく一部地名も）等に，どうしても漢字が比定できず，やむなくひらがな書きのままになってしまったものが決して少なくないことである。この点については大山氏より依頼を受け，私自身も数多くの文献等に当たってその比定作業に微力ながら協力させて頂いたが，資料的・時間的，もちろん力量的限界があり，確定できないものが数多く残ってしまったことが残念である。もちろんその中には，ウィリスのいわゆる聞き間違いによると思われるものも皆無ではないと思われる。相手が早口の鹿児島弁でしゃべったとしたら，なおさらその危険性は増したことであろう。

### (2)『幕末維新を駈け抜けた英国人医師』の「限界」を克服するために

１点目及び２点目の「限界」を補う手段としては，原文書を撮影したマイクロフィルムが，黎明館と神奈川県の横浜開港資料館に保管されているので，それを御覧になるという方法も考えられる（その場合には，準備等の関係上必ず事前に御連絡頂きたい）。ただし，原文書は全般的に崩しのひどい筆記体の文章で，しかも100年以上も前の英語で書かれており，また時として明かな誤字・脱字等も含まれているため難解でもある点，予めお知りおき頂きたい。

３点目の「限界」については，例えば刊行されていない資料の中や，該当人物の御子孫の方など

に伝わる情報等により，明らかになる場合も皆無ではないと考えられる。訳者あとがきで大山氏が言及されているように，心当たりのある方は，ぜひ黎明館学芸課まで御一報頂きたいと願っている。もちろんひらがな書きだけではなく，万一漢字ミスと思われるものに気付かれた場合も同様である。

実を言えば，前節で「ウィリス文書」に登場する人物名等を紹介したねらいは，より多くの方のウィリスに関する研究に資することを第一とするが，上記3点目の限界を補う一つの手段と考えてのことでもある。その趣旨をよく御理解頂き，御遠慮なく多くの情報をお寄せ頂けたら幸いである。

### (3) ウィリス研究に関して・・・今後に向けて

ウィリアム・ウィリス（彼の日本での家族を含む）については，古くは戦前からの鮫島近二氏の研究が知られている。特に氏はウィリスの息子アルバートに直接会われた経験があり，今となっては得難い貴重な情報が含まれる（なお，氏のウィリスに関する論述の多くが遺稿集『明治維新と英医ウイリス』の中に収められている）。また，今日ウィリス研究の最も基本的な参考文献の一つである『英医ウィリアム・ウィリス略伝』の著者佐藤八郎氏や，『薩摩医学史』等の著作で知られる永徳緑峯氏，同じく『鹿児島の医学』『薩摩医人群像』等の森重孝氏，さらにはウィリスの論文や遺書等を紹介された尾辻省悟氏の著述等，数多くの研究が知られている。もちろんそれ以外にも『遠い崖』等の萩原延壽・宇多子御夫妻の研究や，元英国大使で『ある英人医師の幕末維新　W・ウィリスの生涯』の著者ヒュー・コータッツイ氏の研究なども忘れてはならない（以上は本稿全体の参考文献でもあるので，その点お含み置き頂きたい）。なお，佐藤八郎氏や尾辻省悟氏の業績を継承されつつある鹿児島大学医学部教授の村田長芳氏の研究も，今後注目すべきものとなるであろう。

しかしながらウィリスに関してはなお不明の点も多く，資料的な制約も多いけれども，まだまだ研究の余地があるものと思われる。その中で，今回「ウィリス文書」の翻訳文集が出版されたことは，ウィリス研究にとって大変意義深いことであろう。ウィリス研究の基本的資料・文献の一つとなることは確実である。

本稿を終えるにあたり，今一度『幕末維新を駈け抜けた英国人医師　―甦るウィリアム・ウィリス文書―』の出版・刊行に御協力頂いた方々に，心からお礼申し上げたい。特に翻訳者の大山瑞代氏はもちろん解説・協力者の吉良芳恵氏，何かとお世話になった中武香奈美氏など横浜開港資料館の職員の方々やウィリスのお孫さんの河内まり代氏，御助言を頂いた尾辻義人氏や芳即正氏，鹿児島純心女子大学教授の犬塚孝明氏や鹿児島大学名誉教授の五味克夫氏，厳しい出版不況の中でお引き受けくださった創泉堂出版の橋本哲氏及び橋本哲也氏，さらに「ウィリス文書」を御寄贈くださった故萩原延壽・宇多子御夫妻及びウィリスの御親族の方々，それに関して御尽力くださった元鹿児島大学長の井形昭弘氏や元医学部長の故佐藤八郎氏に，深く感謝の意を表して終わりとしたい。

（本館 学芸専門員）